

FP まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

食欲、スポーツ、読書、行楽、芸術、など様々な秋がありますね。皆さんにとって今年の秋はどのような秋ですか？

ところで、10月から11月にかけて保険料控除証明書が送られてくると思います。

保険料控除証明書は、年末調整や確定申告に必要となります。紛失してしまうと、再発行までに時間がかかることがあり、提出期限に間に合わずにご迷惑をおかけすることもありますので大切に保管しておいてください。

保険料控除証明書が送られてくるこの時期、加入している保険の内容について確認する機会にしてはいかがでしょうか？

保障内容の確認などございましたらご遠慮なくご連絡ください。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

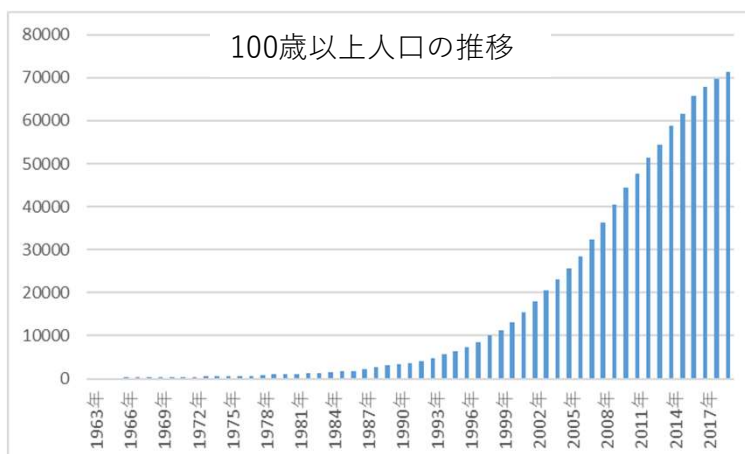
8月に公表された年金財政検証のポイントを整理します。年金の方向性を押さえて、どのような準備をして行けば良いかのヒントにしていいただければと思います。

100歳以上人口は7万人越えに

先月は敬老の日でしたね。

今年100歳になったのは、37,005人（前年比+4,764人）でした。100歳以上の人は全体で71,238人（前年比+1,453人）でした。

100歳になった人には内閣総理大臣からお祝い状と記念品の銀杯が送られます。この制度が始まったのは昭和38年（1963年）、その年に100歳以上だったのはわずか153人でした。



実は記念の銀杯、2015年までは純銀製だったのですが、2016年からは洋銀製（銅、亜鉛、ニッケルの合金の表面を銀メッキ処理したもの）に変更になりました。

これにより銀杯1個当たり、約7600円から約3,800円と半額になり、翌2016年度の当事業予算は2.7億円→1.5億円と大幅な縮減になりました。

ただし厚生労働省の予算（来年度概算要求）は32兆円。どの程度の効果があるのか少し気になるところです。



F P 松本相談センター
CFP・IFA（金融商品仲介業）
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250 090-8741-7358

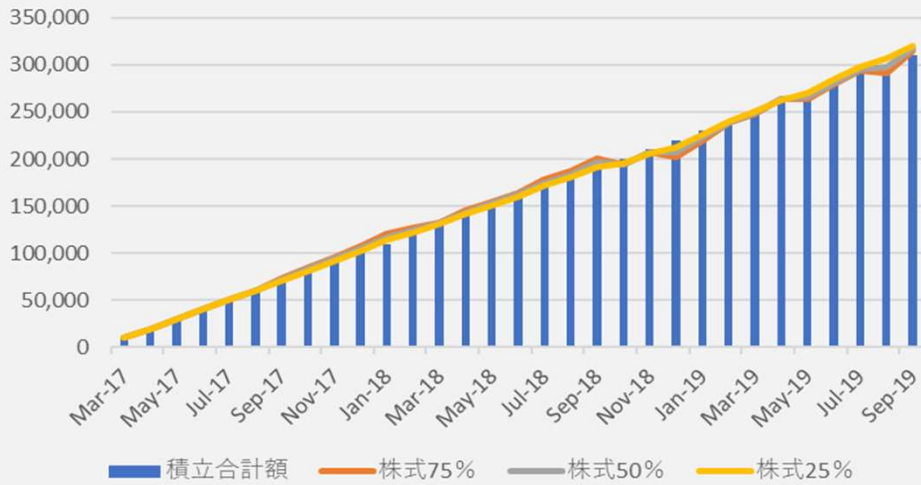
info@fp-matsumoto.com

<http://fp-matsumoto.com>

2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすい」と多くの受講者から支持を得ている。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2019年7末	290,000	293,575	294,433	297,226
2019年8末	300,000	291,276	297,999	307,032
2019年9末	310,000	315,001	317,211	320,452

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

9月の株価は日米とも堅調に推移しました。

	日経平均	NYダウ	ドル円
8月末	20,704.37	26403.28	106.29
9月末	21,755.84	26,916.83	108.06
騰落率	5.08%	1.95%	

米中通商協議が10月に再開するとの見通しから9月の株価は日米とも堅調に推移しました。

ところが10月に入ると一転、大きく値下がりをしています（10月3日現在）。

長期の積立投資では、このような値動きを上手に捉えて利益を出すことを狙うのではなく、「世界中の株式会社のひとつづつが成長し企業の価値（＝株式の価値）が増加するのを待つ」、という考え方が大切です。

今年は年金が大きな注目を集めていますね。6月に公表された「老後資金2000万円不足」報告書がそのきっかけでした。

報告書では、毎月5.5万円の不足額が30年続くとすると約2000万円不足する、という主旨のことが記載されていました。

確定拠出年金を利用して積立投資をしている人は、年金を受取るころにはすっかり投資に慣れているので、ただ2000万円を取り崩すのではなく、運用しながら取り崩すことができるようになっているのでしょうか？

今月は運用しながら取崩しをしたらどうなるかについて見てみます。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

お金の寿命も伸ばす必要が生じてきた

人の寿命が延びたことに伴いお金の寿命も伸ばす必要が出てきました。万一、お金の寿命の方が先に尽きてしまうと大変なことになってしまいます。

まずは、金融庁が試算したように2000万円貯めることができ、異なる利回りで運用しながら毎月6万円を取り崩した場合、お金の寿命が何年になるか試算してみました。

2000万円から毎月6万円ずつ取り崩す場合

0%	27年9ヵ月
1%	32年6ヵ月
2%	40年4ヵ月
3%	59年9ヵ月

1%の利回りでも運用できれば資産寿命は30年を超えてきます。人の寿命はいつまで、と決まっているわけではないので多少は余裕がないと心配です。そう考えると2~3%程度の運用利回りがあると安心ですね。

次は6万円を30年に渡って取崩す場合、運用利回りによって原資はどの程度違うかを見てみます。

毎月6万円取り崩すために必要な原資

0%	2160万円
1%	1867万円
2%	1628万円
3%	1431万円

同じ6万円を取り崩す場合でも運用利回りによってかなり違いがあることがわかります。

次のシミュレーションは、2000万円の原資を30年に渡って取崩す場合についてです。運用利回りによって月々の取崩し金額がどのようになるかを見てみましょう。

2000万円を30年で取り崩す場合

0%	55,000円
1%	64,000円
2%	73,000円
3%	83,000円

0%と3%では随分と毎月の余裕が違ってきそうですね。

このように、取り崩す場合も積立の場合同様、運用利回りによって効果が大きく変わることがわかります。

長期の積立をしながら値動きに右往左往されない資産運用スキル（マインド）を身に着け、そのスキルを取崩しの期間でも生かすことが、より豊かな老後のために必要かもしれませんね。

取崩しは積立より難しい

シミュレーションで使っている運用利回りが1~3%と積立のシミュレーションに比べて低いのでは、と気づいた方も多いのではないのでしょうか？

実は取崩し運用は、運用の不調を自分の所得や時間でリカバーすることが困難になるため、積立運用に比べやや慎重にする必要があります。

積立のシミュレーションだけでなく取崩しのシミュレーションも合わせて検討材料にして、資産運用計画を作ってみてはいかがでしょうか？

(注) シミュレーションは税金を考慮していません。また値動き等の諸条件によりシミュレーションと同様の結果にならない場合があります。

ちょっと気になるお金のコラム

年金財政検証が公表されました



<https://www.mhlw.go.jp/content/000540199.pdf>

8月に公的年金の健全性や将来への見通しを5年に一度確認する「年金財政検証」が公表されました。

6月の「老後資金2000万円不足報告書」の影響もあり、ニュースなどでも大きく取り上げられたのでご覧になった方も多いのではないのでしょうか？

今月は令和元年の年金財政検証のポイントを整理しておきたいと思います。

所得代替率は概ね50%程度へ

現在の所得代替率は、以下の式で表されます。

$$61.7\% = \frac{\text{夫婦2人の基礎年金 } 13.0\text{万円} + \text{夫の厚生年金 } 9.0\text{万円}}{\text{現役男子の平均手取り収入額 } 35.7\text{万円}}$$

2019年度の所得代替率は61.7%です。

この所得代替率が、2040年代半ばには50%程度まで、今と比べると約2割下がることが示されています。

ただし、下がるのは所得代替率であり、給付額ではありません。上記の式を見ればわかりますが、分母の現役世代の収入が上がることでも所得代替率は下がります。

大切なのは、自分の場合はどうなのか？老後にはどの程度のお金が必要なのかをまずは整理することです。

所得代替率を見る上では次の点についても注意しましょう。

- ① 所得代替率の所得は、**現役男子の手取り収入額**のことで、**退職時の所得ではない**という事です。概ね30代後半の所得ではないでしょうか？
- ② 分母は現役男子の平均**手取り**収入額であるのに対し、分子は**額面**であるということです。収入が年金だけであれば税金・社会保険料は現役時代より少ないとは言え、控除前の金額（額面）と控除後の金額（手取り）を比較している点には注意が必要です。

さらに所得代替率50%は、経済成長と労働参加が進む（税込と保険料が増える）ケースです。想定していより経済成長や労働参加が少ない場合には50%を下回り、より抜本的な制度見直しをすることになります。

支払い対象は拡大に、受給開始年齢は引上げに？

今回の年金財政検証では、年金制度を長期に渡り維持するために以下のような試算も示されています。

- 厚生年金適用事業所の範囲を拡大した場合は？
- 一定以上の収入がある短時間労働者・学生バイトも保険料を支払った場合は？
- 保険料の支払い期間を延長した場合（基礎年金65歳まで、厚生年金75歳まで）は？
- 受給開始年齢を75歳まで引き上げた場合は？

など。

今後は、ここに示されているように、保険料支払い対象者と保険料支払い期間を増やす一方、年金を受取る期間を短くする、という方向性の議論がされていくことが予想されます。

自身の年金記録を確認して準備を開始しましょう！

これらの報告書に記載されている数字はあくまでも全体の平均やモデルケースです。受取ることができる年金は、負担している保険料、加入している年金の種類（国民年金のみか厚生年金も加入か）などによって異なります。

まずは自分がどのような状況なのか、保険料の記録漏れなどがなかったかを**年金定期便や年金ネット**で確認しましょう。

そのうえで、将来に向けて準備を始めてはいかがでしょうか？

お金のこと、年金のこと、保険のこと、 すっきりしたい方、安心したい方は無料FP相談をご利用ください

- ✓ 保険料を払いすぎているか確認したい
- ✓ 自分が加入している保険がどのような時にでるのか確認したい
- ✓ 年金がいくらぐらいもらえるのか知りたい
- ✓ 年金が不安だがどのように準備したらよいか知りたい
- ✓ 火災保険や自動車保険のお得な入り方を知りたい
- ✓ 確定拠出年金の商品選びについて教えて欲しい
- ✓ その他



このようなことで少しでも気になることがある場合はご相談ください。ニュースレター会員の方向けに無料でFP相談を行っています。

ご相談事例

- 昔に入った生命保険を見直して毎月の保険料が大幅にダウン。
- 年金定期便の見方がわかり、具体的に老後資金準備のイメージがつかめた。
- 最近の医療制度や医療技術に合わせた保険に変更でき安心した。

FP無料相談 お申込

ご確認したい項目に、必要事項をご記入の上、ファックスでお申込ください。折り返しご連絡を差し上げます。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 生命保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金定期便の見方 |
| <input type="checkbox"/> 加入生命保険の内容を確認したい | <input type="checkbox"/> 老後資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> がん保険・先進医療保険について | <input type="checkbox"/> 教育資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> 損害保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金商品の選び方 |
| <input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 確定拠出年金の商品選びについて |

お名前

電話番号

メール

 (ブロック体でご記入ください)

勤務先

お役職

お問い合わせフォームはこちら⇒
<http://fp-matsumoto.com/contact/>



↓ FAX:050-3730-0380 ↓

個人情報の利用目的：当該サービスを提供。当社サービスのご案内